

第14回 繫離船作業に係る安全問題検討会 議事概要

日 時：令和7年10月6日(月)16時30分～18時00分

場 所：国土交通省港湾局10F会議室

議事1 繫離船作業の安全対策について

(説明：日本繫離船協会)

- 近年の繫離船作業に関する実態、安全対策の取組状況が報告された。
- 繫離船作業中における係船索破断の事例、繫離船作業に危険を及ぼす係留施設の設備や岸壁利用の事例等が写真、模型、動画を用いて説明された。繫離船作業に伴う事故の傾向や未然防止策について、検討会の出席者間で以下の意見などが交わされた。
 - ・係船索が破断する原因として、出入港時に係船索をブレーキ代わりにする事例、本船のエンジンを使いすぎる事例、船員のワインチを巻きすぎる事例等があるため、船側に危険性の周知が必要。
 - ・繫船ボートで作業中に本船にエンジンをかけられプロペラを回された場合、ロープが暴れて繫船ボートの操船が危険な場合がある。
 - ・2段階で切れるような特殊なロープを使用したら、逃げる時間があるため怪我を回避できると思われる。
 - ・防舷材のシャックル等の突起物や車止めの間に障害物があると、係船索が引っかかる原因となるが、フラットにするなど新しい施設では対応しているところがある。

議事2 係船作業に関する外国船舶への安全啓蒙活動について

(説明：国土交通省海事局)

- 令和7年3月に実施した、ポートステートコントロール(PSC)を実施した外国船舶を対象とする安全啓蒙活動が紹介された。また、改正 SOLAS 条約が発効にあたり、PSC としての適合性確認について引き続き厳正に対処する旨が報告された。

議事3 港湾における取組等について

(説明：国土交通省港湾局・国土技術政策総合研究所)

- 令和7年7月に改訂された「港内長周期波影響評価マニュアルの改訂」が紹介された。
- 令和7年10月に新たに策定された「吸着式自動係留装置導入ガイドライン(案)」に係る内容が紹介された。
- 大型係船柱における繫離船作業の改善の観点から、係船柱の小型化について検討しており、検討状況の報告を行った。